

2008年3月、北海道経済産業局協力、北海道情報産業クラスター・フォーラム発行の「きらり☆IT」と言う冊子に当社の取り組みが掲載されました。



2頁にわたって紹介されています。1頁目です。

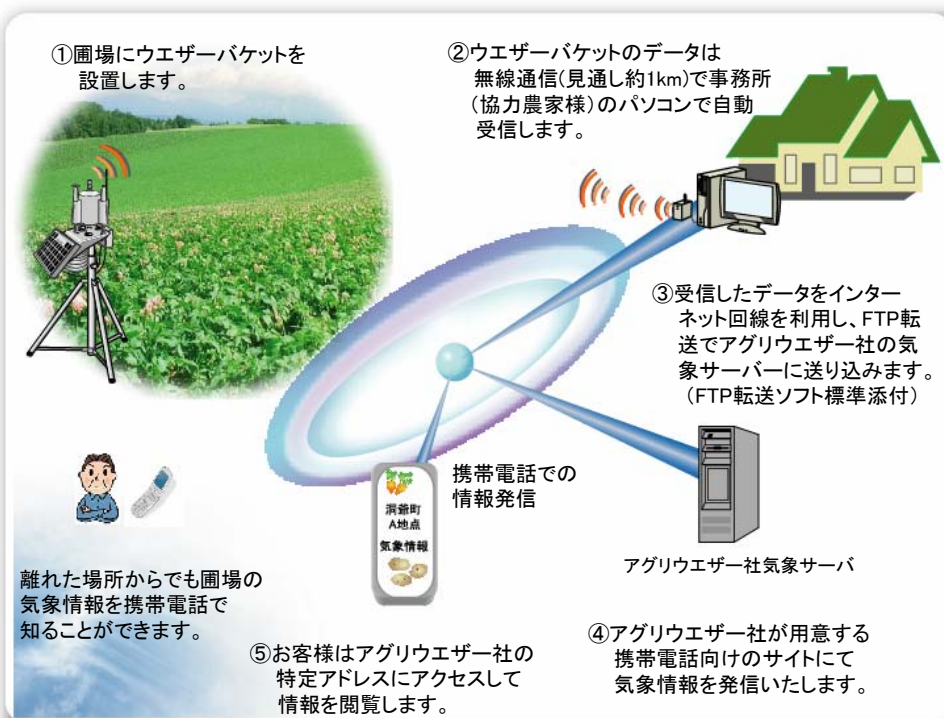


当社がいつも「ウェザーバケット」を使って構築しているシステムのシステム図です。

代表の横山です。何故か写真写りが悪い… (本人談)

## 国内初の農業向け無線式多機能観測システムを開発

- ◆ 圃場など電気・通信インフラの乏しい環境でマイクロな気象観測が可能
- ◆ 先進的な農家の安心安全の作物づくりに貢献



気象データの測定、蓄積、転送を1台で行う

## 2008年3月、北海道経済産業局協力、北海道情報産業クラスター・フォーラム発行の「きれい☆IT」と言う冊子に当社の取り組みが掲載されました。

2頁目です。



### わが社の注目技術

### 「農業と気象の交差点」でのIT活用

アグリウエザーのスローガンは「農業と気象の交差点を追求する」で、ミクロな気象データを農業生産へ活用することをミッションとしている。現在の関心領域は、消費者から見た圃場のあり方を模索し、「産地発信型精密農業構想」という命題の追及だ。今や農業生産者が消費者へ向かって「品質と安全性」をアピールする時代となっており、他産地との差別化には、高度な農業生産技術のアピールが必要だ。また農業生産技術の追求にも、生産環境の基礎である気象の把握が欠かせない。消費者が知りたい現地気象情報の模索を通じて生産者と消費者を結び架け橋となり、消費者が安心して食生活を楽しめるような相互強調型の日本農業の発展を目指している。

記事の内容は以下の通りです。

### 国産オンリーワンの気象観測システム

「ウェザーバケット」は、おもに圃場など電気通信インフラの乏しい屋外で、ソーラーパネルバッテリーと無線転送により、気象情報を収集する、一体型無線式多機能気象観測システム。気温、湿度、雨量、気圧、日射、風向・風速などの測定およびデータの蓄積・転送まで一台で行える一体型無線式システムとしては、国内オンリーワンの製品だ。

農業生産において気象データは、播種・収穫や農薬の散布などの最適期を見極めるのに重要な意味を持つ。しかし、気温・地温はもちろん、降雨、日照なども地形に影響されるため、気象台の測定データと実際の圃場でのデータは異なるのが普通だ。そこで、品質や収量向上にこだわる農家や、安全安心な作物づくりなど消費者等への積極的な情報公開を行う農家など、自分の圃場の詳細な気象データを必要とする先進的な農家が、「ウェザーバケット」のターゲットだ。

### 農家以外にもユーザーが広がる

ウェザーバケットは道内外の農業試験場、地方公共団体、農協、食品メーカーなどで導入されている。なかには、ウェザーバケットを管轄地域に面的に設置し、メッシュデータ化して地域内の農家に提供する例も見られる。

アグリウエザー社が、直接営業できるのは、農業試験場など団体ユーザーに限られ、個々の農家に対してはインターネット上での販売が中心となっている。導入時のサポートもユーザーに近いところに行くことが望ましく、全国各地でのパートナー探しが同社の課題だ。

微気象分野は地形の影響が大きいので、GIS（地理情報システム）とも関係が深い。同社では、GISの研究・事業化を図る事業組合に所属し、空間情報ビジネスの一領域として、微気象を利用する新たな価値創造を模索中だ。

### 理想の機器を作り上げた技術力

横山社長は農業気象の専門家で、圃場単位など限られた範囲の気象（微気象）が農業に及ぼす影響の研究が専門分野だ。つまり広さ数10m～数100m。高さが数mの空間の「土層+水層+気層」の気象を研究対象とする。

横山社長は研究成果をもとに、水田水温予測ソフト・土壌水分予測ソフト・いもち病発生予測ソフトなどのソフトウェアを開発してきたがそれを実際に適用するには農家自身が使える手ごろな観測機器が無いことが悩みだった。函館のエスイーシーが作った電子百葉箱を見て、「これをもとに理想の機器を自分で作ろう」と同社と共同開発したのがウェザーバケットだ。

圃場で使用するため電源は電池と太陽電池とし、データ転送は無線方式で1km程度まで転送できるようにするなど、横山社長の監修のもとハードウェアはエスイーシーが設計・製作した。アグリウエザーは農業気象に関するデータ収集および播種・収穫・農薬散布など用途に応じたデータ解析ノウハウを提供し、商品化にこぎつけた。